

3 活動状況

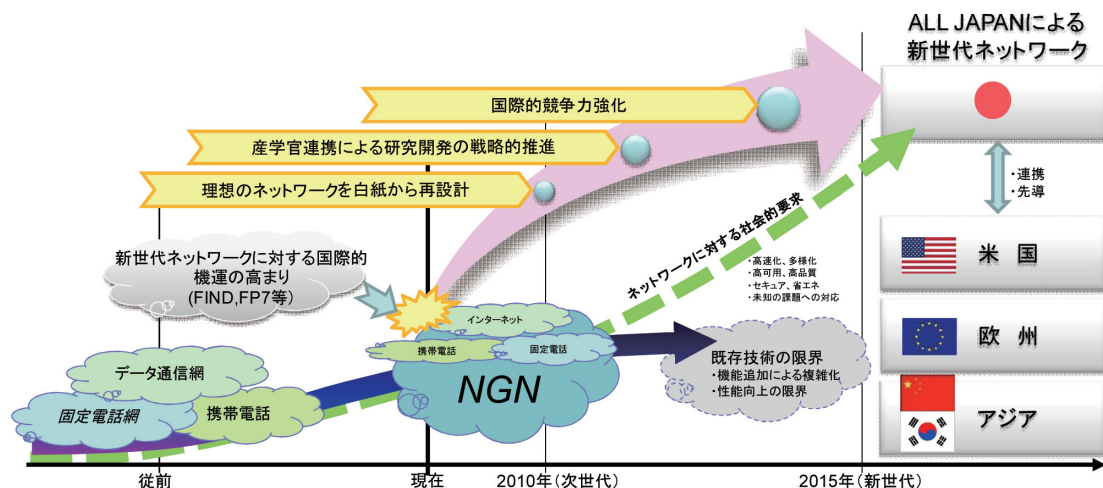
3.1 新世代ネットワーク研究開発戦略本部

理事長 宮原秀夫 ほか29名

概要

新世代ネットワーク研究開発戦略本部は、新世代ネットワークに関する研究開発を戦略的に推進するため、理事長を本部長とし平成19年10月1日に部門横断的な組織として発足した。新世代ネットワーク研究開発戦略本部の任務は、新世代ネットワークに関する中長期的な研究開発戦略を策定し、戦略に基づく研究開発推進体制の検討等を行うことにより、各研究センターや連携研究部門が進める研究開発に対して戦略的な指針を与えることである。

新世代ネットワークは、NGNの更にもその先を見据えた新しい設計思想に基づくネットワークであり、インターネットの改良やその延長だけでは困難な既存ネットワークの課題・限界を、既存技術にとらわれずに白紙(clean slate)から新しくデザインしていくことにより、抜本的に解決することを目指すものである。欧米でも同様の取り組みが活発化しており、当機構は、戦略を以て我が国のこの分野における研究開発を牽引したいと考えている。なお、新世代ネットワークの研究開発は、政府も最重要施策と位置付けており、総合科学技術会議の平成20年度優先度判定において情報通信領域では唯一の最高評価(“S”評価)を得た。(“S”評価は新規施策92件中6件)

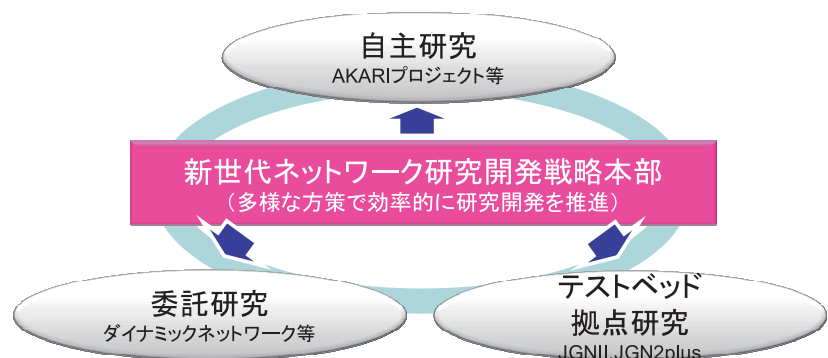


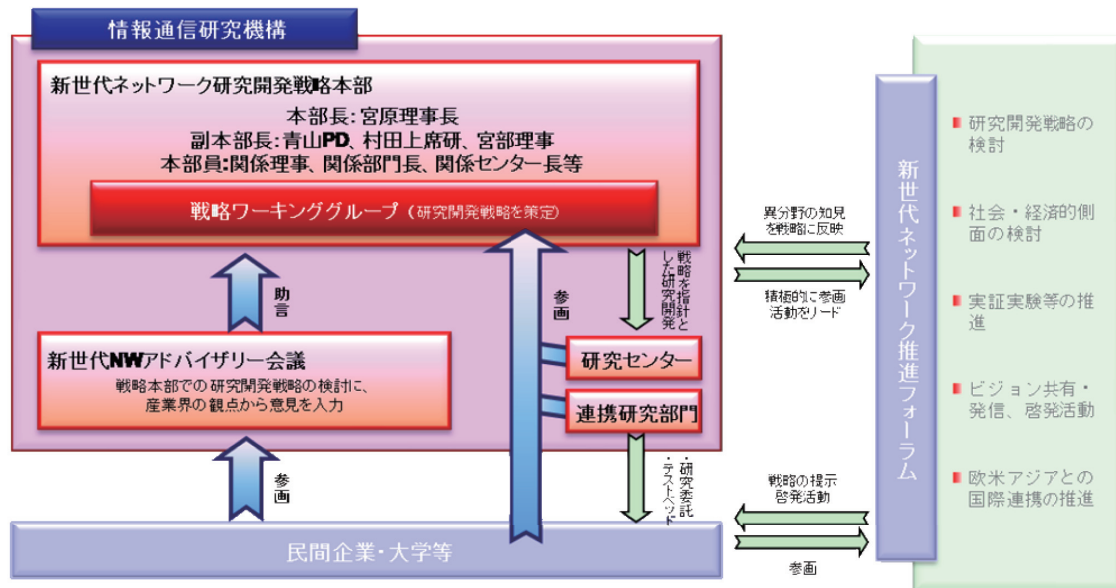
平成19年度の主な活動

新世代ネットワーク研究開発戦略本部は、平成19年度半ばの発足から半年間で主に体制整備を行った。その内容は、本部自身の整備と産学官と連携した推進体制の整備及び対外アピールや国際連携のための関係構築である。

まず本部自身の整備としては、その設置に続いて、企業から第一級の人材を集めるとともに情報通信研究機構の中からも研究者を集め、本部の中に集中的・専断的に戦略を検討するための戦略ワーキンググループを組織した。戦略ワーキンググループは平成20年1月から活動を開始し戦略案を作成すべく精力的に検討を行っている。

次に産学官と連携した推進体制として、AKARIプロジェクト等の情報通信研究機構が自ら実施する研究開発のみならず、共同研究、研究委託、テストベッド(JGN2plus)の提供等のスキームを活用した情報通信研究機構外部と連携した新世代ネットワーク関連研究全般を、新世代ネットワーク研究開発戦略本部が司令塔となって戦略的に推進する体制とした。





また、その一環として、本部発足の直後平成19年11月6日に総務省と連携して、広く産学官が結集したオールジャパンの推進母体である「新世代ネットワーク推進フォーラム」を設立し、会員数は214を超えている。新世代ネットワーク推進フォーラムでは総務省と共同で庶務を務め、国際連携について学術的見地からの助言等を行う新世代ネットワーク推進委員会、基礎研究から応用までの研究開発戦略を検討する研究開発戦略ワーキンググループ、新世代ネットワークの社会・経済的側面を検討するアセスメント・ワーキンググループ、新世代ネットワークのビジョン共有・発信、啓発活動を行う企画推進ワーキンググループを立ち上げるとともに、テストベッドネットワーク、実証実験等の推進を担うテストベッドネットワーク推進ワーキンググループについては次世代高度ネットワーク推進会議からの移行準備を進めた。

最後に対外アピールや国際連携のための関係構築については以下のとおり実施した。

- スーパーイベント（10/2）の中で新世代ネットワークへの取り組みを情報通信研究機構の柱の一つとして打ち出す。
- JGN2+AKARIシンポジウム（1/17～18）を開催し、海外のキーパーソンを招き日本の取り組みを印象づけるとともに国内に向けて諸外国の状況を紹介。さらに国際連携の重要性について認識を共有。
- 日EU・ICT研究協力フォーラム（3/4～5）の際に、欧州委員会情報社会・メディア総局と情報通信研究機構の共催で、日EU共催シンポジウムを6月に開催することを確認。
- ワシントンフォーラム（3/18）を開催し、情報通信研究機構と米国の政府関係者の中でそれぞれの取り組みについて意見交換。

その他、米国のGENIやFINDの定期会合及びEU/FP7の関連会議に参加し、積極的に情報交換することで交流を行っている。

以上のように、平成19年度は新世代ネットワークの研究開発を戦略的に推進する体制をほぼ整えることができたとともに、今後、新世代ネットワークの研究開発を力強く推進していくことを国内外にアピールし気運を盛り上げた。

